

進路指導論

Study of Career Guidance

TANIAI Shinobu
谷合しのぶ

科目ナンバリング：UTL-2-311-08



■授業の目的及び到達目標

進路指導は、「生き方、在り方指導」を要とした長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動であり、それを包含するキャリア教育では、社会的自立に必要な資質・能力を育むことを目的としている。こうした視点から、体験活動、ガイダンスやカウンセリングの意義や在り方を理解するとともに、指導計画案の作成を通じて、組織的に取り組むことの意義と重要性、必要な資質・能力、知識や素養を身に付けることを本講座の目的とする。

その上で、カリキュラム・マネジメントを意識した教科等横断的な教育活動としての進路指導・キャリア教育の実践的指導における基本的な知識や資質を身に付けることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 進路指導の意義と基本理念
進路指導における学校教育の目的と社会的意義、一般原理、子供や学校を取り巻く課題、法的根拠について理解する。
- 2 進路指導の歴史
アメリカの職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史的発展を展望するとともに、日本の進路指導への影響等を考察することを通して、日本における進路指導の歴史と発展、並びに進路指導の歴史を学習指導要領に即して社会の変化と関係付けつつ、教育課程における進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、そこに至る位置づけを概観する。
- 3 進路指導からキャリア教育へ
キャリア教育の必要性とキャリア発達に関わる4領域8能力に触れつつ「勤労観・職業観を育成するキャリア教育」の重要性について理解する。さらに、「キャリア教育の手引書」に記載されている内容を読み解くことを通じて、学校教育におけるキャリア教育の意義、望ましい勤労観・職業観の形成、並びにキャリア教育と進路指導の考え方について理解を深める。
- 4 進路指導からキャリア教育へ（演習）
これまでの学習のまとめとして、実際に自分自身の「将来に向けたキャリア形成に対する考え」や「生き方」について考えることを通じて、「生き方教育」としてのキャリア教育の必要性等についての理解を深める。
- 5 進路指導の組織と体制1
進路指導の法的根拠や学習指導要領での位置づけを通して、学校教育の内容や学習を取り巻く環境等について把握しながら、公教育として実施される進路指導の在り方について学ぶ。
- 6 進路指導の組織と体制2
生徒に「進路選択力・進路決定力」を身に付けさせ、生徒一人一人に適切なキャリア形成を図るためには、教員の生徒理解や指導等に関する具体的な方法、並びに共通理解・共通実践の必要性、発達段階に応じた進路指導主事、学級担任の役割について理解する。
- 7 進路指導計画の作成1
適切な「勤労観・職業観」を育成するキャリア教育・進路指導の充実を図るためには、学校の実態や地域性等を考慮した指導計画に基いた組織的な指導が必要である。指導計画作成についての理解を深めることを通じて、適切な「進路選択力・進路決定力」と「勤労観・職業観」を育成する進路指導の進め方について理解を深める。
- 8 進路指導計画の作成2（演習）
実際に中学校3年生における年間指導計画を作成することを通して、学習指導要領上の位置づけ、計画的な時間配分・指導内容、適切な「進路選択力・進路決定力」を育成する進路指導の進め方について理解を深める。
- 9 進路指導における体験活動の実践
「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」に記載されているキャリア教育に対する考え方、指導の在り方に基づいて、キャリア教育の一環として実施される「中学校職場体験活動」「高等学校インターンシップ」の意義や実施計画への理解を通して、発達段階に応じたキャリア発達に向け青年期に育成する資質・能力とキャリア教育の必要性について理解を深める。
- 10 キャリア・カウンセリングの定義、歴史について理解するとともに、スクール・カウンセリング、キャリア・カウンセリングの機能や特徴、必要性、活用方法、実施上の留意点などについて理解を深める。
- 11 キャリア・カウンセリングの理論とその活用2
進路相談を進めるにあたっての学級・ホームルーム担任の役割や配慮点、実施上の留意点等についての理解を通して、学校における進路相談活動の意義や進め方についての理解を深める。
- 12 進路指導の評価と活用
進路指導における評価の意義、対象と内容・方法、活用についての理解を通して、教育活動における評価活動の意義、よりよい進路指導の実践には、適切な評価に基づいた実施・改善が必要であることを理解する。
- 13 進路指導における今日的課題
社会問題や教育問題から見える子供や青年の課題を通して、適切な進路指導の実践に向け、学校教育と関係諸機関、家庭との連携の在り方について理解を深める。

■授業の方法

ブラックボード上に掲載された講義資料、指定された教科書、参考文献等を読み、講義資料に指定されたレポートや課題を作成し送信する。フィードバックとしてレポートは提出後、添削・評価し各自のメールに返却する。

■予習・復習

予習:次回の講義の内容にかかわる教科書や参考資料等を一読する。

復習:授業内容をもとにしたレポートや課題に取り組むことをもって復習とする。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

毎回の講義後に提出するレポートや課題の提出状況及び内容評価を総合的に判定する。授業参加度については、レポートや課題の提出状況(指定された提出日)で評価する。レポート60%、課題30%、授業参加度10%とする。

■教科書・参考書

教科書 教職シリーズ7「進路指導」新井国次郎編 培風館

参考文献 「中学校学習指導要領解説 総則」「中学校学習指導要領解説 特別活動」「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間」(平成29年告示)

「高等学校学習指導要領解説 総則」「高等学校学習指導要領解説 特別活動」(平成30年告示)

「中学校キャリア教育の手引き」「高等学校キャリア教育の手引き」文部科学省

■関連する科目

教育・発達心理、教育社会学、特別活動論、道徳教育指導論、職業指導、教育相談(カウンセリングを含む)

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は、東京都公立中学校や教育委員会に36年間勤務し、進路指導に関する研究実績を積んできており、それを本目の指導に生かしていく。